

Stokes の流れ関数について

軸対称な円筒座標系において、図 1 に示すような非圧縮性の流れを考える。連続の式は、

$$\frac{\partial u}{\partial r} + \frac{u}{r} + \frac{\partial w}{\partial z} = 0 \Rightarrow \frac{\partial(ru)}{\partial r} + \frac{\partial(rw)}{\partial z} = 0 \quad (1)$$

と書ける。今、Stokes の流れ関数を ψ_s [m³/s] とし、

$$u = \frac{1}{r} \frac{\partial \psi_s}{\partial z}, \quad w = -\frac{1}{r} \frac{\partial \psi_s}{\partial r} \quad (2)$$

のように定義すれば、式(1)は常に満たされる。

次に、経路 AB 間を通過する流量（単位は m³/s）は、経路上の局所速度の法線成分に $2\pi r$ を掛けて線積分することにより得られる。

$$\begin{aligned} (\text{Flow rate}) &= \int_A^B q_n 2\pi r ds = 2\pi \int_A^B \vec{q} \cdot \vec{n} r ds = 2\pi \int_A^B (un_r + wn_z) r ds \\ &= 2\pi \int_A^B \left(\frac{1}{r} \frac{\partial \psi_s}{\partial z} n_r - \frac{1}{r} \frac{\partial \psi_s}{\partial r} n_z \right) r ds = 2\pi \int_A^B \left(\frac{\partial \psi_s}{\partial z} n_r - \frac{\partial \psi_s}{\partial r} n_z \right) ds \end{aligned} \quad (3)$$

ここで、この曲線（積分経路）に対しての単位法線ベクトル \vec{n} と $d\vec{s}$ ベクトルとは互いに直交するので、

$$\vec{n} = \vec{e}_r \frac{dz}{ds} - \vec{e}_z \frac{dr}{ds} \quad (\because d\vec{s} = \vec{e}_r dr + \vec{e}_z dz) \quad (4)$$

と書けるだろう。確認のために、大きさを求めるとき確かに 1 になる。

$$|\vec{n}| = \sqrt{\left(\frac{dz}{ds}\right)^2 + \left(-\frac{dr}{ds}\right)^2} = \sqrt{\frac{(dz)^2 + (dr)^2}{ds}} = 1$$

式(4)を式(3)に代入して、流量を求めていくと

$$\begin{aligned} (\text{Flow rate}) &= 2\pi \int_A^B \left(\frac{\partial \psi_s}{\partial z} n_r - \frac{\partial \psi_s}{\partial r} n_z \right) ds = 2\pi \int_A^B \left(\frac{\partial \psi_s}{\partial z} \frac{dz}{ds} + \frac{\partial \psi_s}{\partial r} \frac{dr}{ds} \right) ds \\ &= 2\pi \int_A^B \left(\frac{\partial \psi_s}{\partial z} dz + \frac{\partial \psi_s}{\partial r} dr \right) = 2\pi \int_A^B d\psi_s = 2\pi [\psi_s(B) - \psi_s(A)] \end{aligned} \quad (5)$$

となる。よって、AB 間の曲線の経路に依らず、2 点間を通過する流量は、2 点間の Stokes の流れ関数値の差に 2π を掛けたものに等しいことがわかる。ある一つの流線に沿う積分を考えると、その積分値はゼロとなるので、流線上で ψ_s は一定値となることがわかる。

参考 1：非圧縮性流れでは、 $\vec{u} = \vec{\nabla} \times \vec{\psi}$ の関係式から、 $u = -\frac{\partial \psi_\phi}{\partial z}$, $w = \frac{\partial \psi_\phi}{\partial r} + \frac{\psi_\phi}{r}$ と流れ関数

ψ_ϕ を定義するが、式(1)は満たされる。しかしながら、この通常の流れ関数（ベクトルポテンシャルの周方向成分）では、Stokes の流れ関数とは次元（単位）が異なるため、2 点間の流れ関数の差は、当然のことながら流量とはならないことに注意。

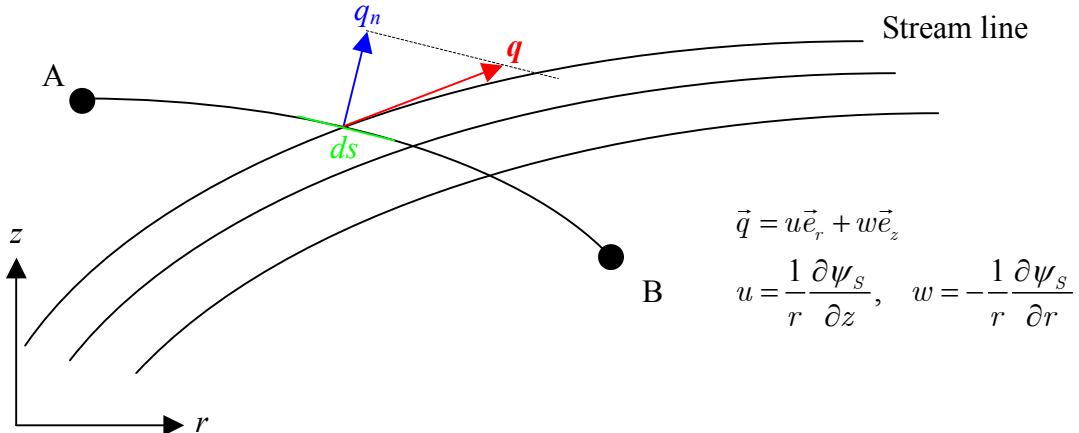


図1 ある積分経路ABと流線の交点における速度ベクトル \mathbf{q} , 法線速度 q_n , 積分線素 ds . 単位法線ベクトル \mathbf{n} は q_n に平行である.

参考2：球座標系 (r, θ, ϕ) における連続の式は、軸対称の場合には左辺第3項が落ちて、

$$\frac{1}{r^2} \frac{\partial}{\partial r} (r^2 u_r) + \frac{1}{r \sin \theta} \frac{\partial}{\partial \theta} (u_\theta \sin \theta) + \underbrace{\frac{1}{r \sin \theta} \frac{\partial u_\phi}{\partial \phi}}_0 = 0$$

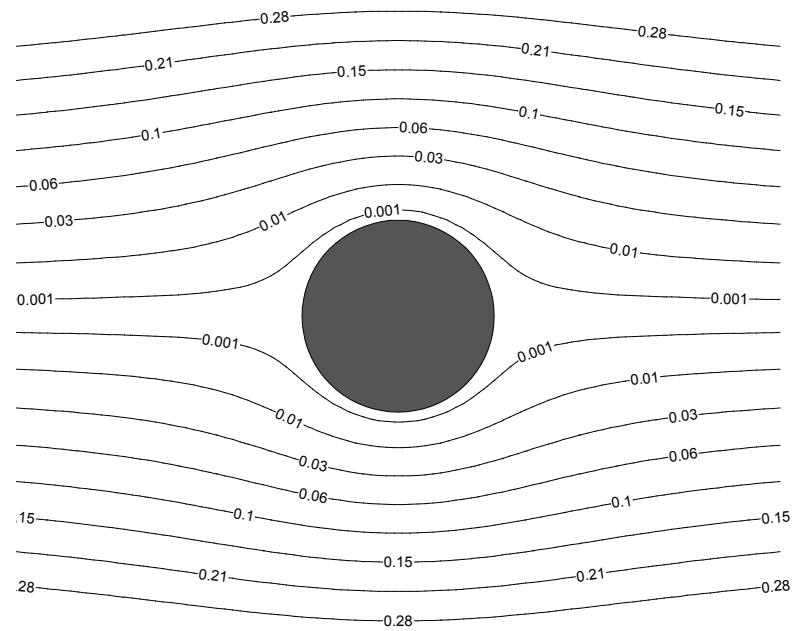
と与えられる。これを変形すると次式のように書ける。

$$\frac{\partial}{\partial r} (r^2 u_r \sin \theta) + \frac{\partial}{\partial \theta} (r u_\theta \sin \theta) = 0$$

したがって、上式を恒等的に満足するように、軸対称球座標系のストークスの流れ関数 ψ_{sp} を次のように定義できる。

$$u_r = \frac{1}{r^2 \sin \theta} \frac{\partial \psi_{sp}}{\partial \theta}, \quad u_\theta = -\frac{1}{r \sin \theta} \frac{\partial \psi_{sp}}{\partial r}$$

一様流速中に置かれた静止球体まわりの軸対称なクリーピング流れでは、以下に示される流線（ストークスの流れ関数 ψ_{sp} の等高線）が描ける。



軸対称流の可視化例. 線に付与される数字は流れ関数の値を示す.